

第20週の発生動向 (2008/5/12~2008/5/18)

1. 咽頭結膜熱については、東地方+青森市保健所管内において2007年第45週から、むつ保健所管内では、2007年第48週から**警報**が続いています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については、東地方+青森市保健所管内において第8週から、**警報**が続いています。

第20週五類感染症定点把握 注:五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

疾患番号・疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点
(85) インフルエンザ			2	0.13									2	0.03	-3				
(74) RSウイルス感染症			1	0.11									1	0.02	1				
(75) 咽頭結膜熱	4	0.44	3	0.33					5	0.83	8	2.00	20	0.48	3	2	2.00	2	0.25
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	28	3.11	20	2.22	4	0.44	3	0.60	7	1.17	1	0.25	63	1.50	9	4	4.00	24	3.00
(77) 感染性胃腸炎	58	6.44	27	3.00	12	1.33	19	3.80	55	9.17	27	6.75	198	4.71	32	7	7.00	51	6.38
(78) 水痘	8	0.89	21	2.33	14	1.56	3	0.60	8	1.33			54	1.29	-23	2	2.00	6	0.75
(79) 手足口病					1	0.11					1	0.25	2	0.05	1				
(80) 伝染性紅斑					6	0.67							6	0.14	4				
(81) 突発性発しん	6	0.67	2	0.22	7	0.78	1	0.20	2	0.33	4	1.00	22	0.52	1	2	2.00	4	0.50
(82) 百日咳	1	0.11											1	0.02	0			1	0.13
(72) 風しん	平成20年1月1日から全数把握疾患に移行しました。															0			
(83) ヘルパンギーナ	8	0.89											8	0.19	6			8	1.00
(73) 麻疹	平成20年1月1日から全数把握疾患に移行しました。															0			
(84) 流行性耳下腺炎	1	0.11	1	0.11			1	0.20	1	0.17	1	0.25	5	0.12	-1			1	0.13
(86) 急性出血性結膜炎															0				
(87) 流行性角結膜炎	1	0.50					1	1.00	1	0.50			3	0.27	-6			1	0.50
(95) マイコプラズマ肺炎			1	1.00									1	0.17	-11				

保健所名	定点数			
	インフルエンザ (小児科+小児科)	小児科	内科	眼科 基幹
東地方	2	1	1	0
弘前	15	9	6	3
八戸	14	9	5	2
五所川原	7	5	2	1
上十三	9	6	3	2
むつ	6	4	2	1
青森市	12	8	4	2
合計	65	42	23	11

は警報
 は注意報
 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (注:届出数は速報値です)

- (9) 結核(二類全数把握疾患): 弘前3人、五所川原1人、むつ1人、青森市1人 (20年計:190人)
- (62) クロイツフェルト・ヤコブ病(五類全数把握疾患): 青森市1人 (20年計: 2人)
- (34) つつが虫病(四類全数把握疾患): 青森市1人 (20年計: 1人)

感染症の窓

手足口病

手足口病の病原体は、コクサッキーA16 (CA16)、CA10、エンテロウイルス71 (EV71) 型などのエンテロウイルスによって起こります。特にEV71は**中枢神経系合併症の発生率が高い**ことが知られています。現在、中国各地で手足口病の感染が拡大し、EV71型が検出された患者もいます(5/16)。

日本国内では、4月上旬より増加し始め、本県の現在の状況は、極めて少ない届出数ですが、前年の同時期は、5月下旬から増加し始めていることから、今後の動向に注意が必要です(図)。

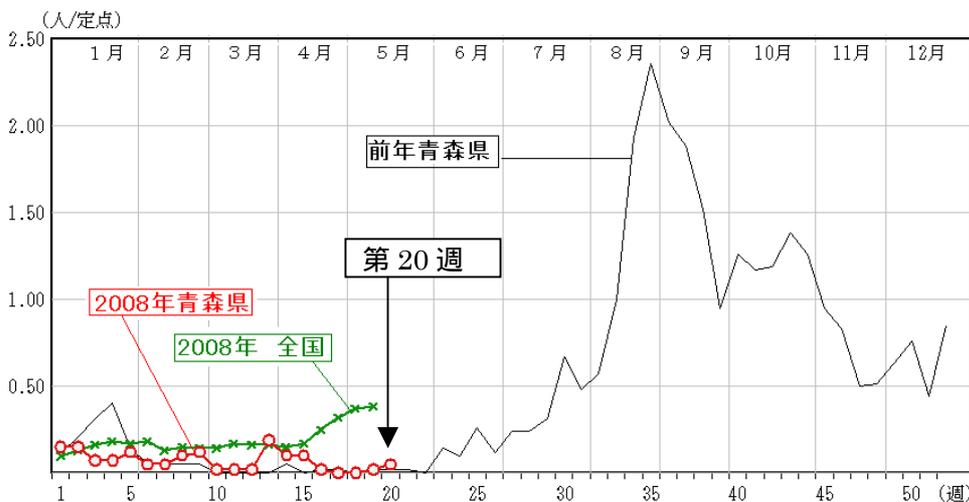


図 全国および青森県における届出数推移

好発年齢は乳幼児であり、症状は、通常微熱で始まり、口の中の水疱、手と足に現れる水疱性の発疹などです。感染は、飛まつ、大便や鼻水などの排泄物、水疱から直接感染することから、**排便後の手洗いの励行**が大切です。